

## 令和2年度に係る業務の実績に関する評価結果 国立大学法人電気通信大学

### 1 全体評価

電気通信大学は、イノベーションをもたらすための幅広く統合化された科学技術体系を「総合コミュニケーション科学」と捉え、それに関する教育研究の実践の場として世界的な拠点となることを目指している。第3期中期目標期間においては、強みとする情報・電子・ロボティクス・光・ナノ材料等の学術・技術の更なる高度化を推し進め、確かな専門性と学際的・複眼的な思考力を備えグローバルな環境で技術や社会を先導することのできるイノベティブな人材の養成と、次世代科学技術分野及び既成概念に捉われない境界・融合領域の創造を通じて、人々が心豊かに暮らせる持続発展可能な社会の実現に向けた役割を果たすことを基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、企業の要望を踏まえてカスタマイズした社会人向け教育プログラムを実施するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画に取り組んでいることが認められる。

#### （「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、令和2年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

○「ステークホルダーに対する積極的かつ、わかりやすい情報発信」をコンセプトに財務レポートを令和元年度に一新し、財務情報のみならず大学の概要、教育研究等の取組・成果に係る情報や大学基金への寄附、産官学連携に係る案内を加えるなど大幅な変更を行っている。さらに、令和2年度の財務レポートでは、若手職員も積極的に関与させ、大学がどのようなビジョン・戦略に基づき、どのように新たな価値・成果を生み出し社会に貢献しているかの投資家を意識した構成に変更するとともに、独自の実践力の育成に特徴を持たせた段階的な教育体制や広域で多彩な研究事例として、若手研究者の研究活動やSDGsに向けた取組の状況を図や写真等を活用しつつ紹介するなどの改訂を行い、産学官連携センターや基金事務局等における企業等との交渉の場で活用している。

（ユニット「多様な資金調達の実施による自己収入の確保」に関する取組）

## 2 項目別評価

## &lt;評価結果の概況&gt;

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

## I. 業務運営・財務内容等の状況

## (1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

## 【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載12事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

## (2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

## 【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載9事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

令和2年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

## ○ 社会人向け教育プログラムの実施

東証1部に上場する建設企業と電気機器企業に対して、それぞれの要望を踏まえてカスタマイズしたエクステンションプログラム(社員教育プログラム)を構築し、建設企業には2コース(初級データサイエンティスト講座及び役員向けAI講座 30名受講)、電気機器企業には1コース(AI実践講座 11名受講)のプログラムを実施し、合計で約870万円の収入を得ている。

**(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標**

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

**【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**

(理由) 年度計画の記載3事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

**(4) その他業務運営に関する重要目標**

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守等

**【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**

(理由) 年度計画の記載16事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

令和2年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

**○ 実効性のあるインシデント対応体制の整備**

OSINT (Open Source Intelligence) の情報 (一般公開されている情報) を収集し、インシデントの予防に利活用しているほか、グローバルIPアドレス利用責任者全員に対して実態調査を実施し、緊急時に停止可能な情報機器の事前把握をしている。これらの取組により、インターネット上で行われている攻撃のトレンドを把握し、攻撃に対する防御や被害の確認を効率よく迅速に行うことが可能となっている。

## Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

令和2年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

### ○ 先端研究と結合したアクティブ・ラーニングスペースの活用

汎用AI研究の推進と学生の主体的で能動的な学びを実現させるための先進的なアクティブ・ラーニングスペース「UEC Ambient Intelligence Agora」(AIA)において、AIAの環境内に設置した多様なセンサーから取得したビッグデータを活用し、環境内のCO<sub>2</sub>濃度の変化を捉えることで、新型コロナウイルスの感染症リスクを可視化する研究を実施し、研究成果を踏まえたサーキュレーターや座席配置の変更を行うなど環境改善につなげている。